

竹中さんについては、広報・農業農村の整備（第534号、平成28年3月17日）の「水土を守る人々 Vol.10」で紹介したところですが、今回は、平成28年4月14日及び16日の熊本地震で甚大な被害を受けた後の竹中さんの取組について紹介します。

秋津飯野地域における被害直後の対応について

～秋津飯野土地改良区 竹中 宏豊 氏～ 熊本県熊本市

1. 被災直後のこと

平成28年4月14日（木）の午後9時26分に、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生しました。また、その28時間後の4月16日（土）の午前1時25分には、同じく熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生しました。



補給水用の用水施設が破損し漏水

秋津飯野土地改良区は、甚大な被害を受けた熊本市と益城町にまたがる地区であることから、土地改良区事務所、農地、農業用施設すべてが被災しました。

このときのことを竹中さんは、このように語っています。「約200haの農地への用水供給はパイプラインで圧送しているのですが、1度目の地震で、直感的に、今年の用水手当はできないと思いました。用水手当ができないなら、水稻も作付けできないので、翌15日の早朝には、大豆種子の手配に動きました。うちの地区は、米、麦、大豆の2年3作ですので、大豆への転換がベストと判断したからです。」

4月の秋津飯野地域には、麦が植わっていました。麦は、湛水してしまえば、根腐れしてしまいます。このことから、竹中さんは、大豆種子の手配の次に、排水ポンプの被災状況を確認しました。「うちの地区は、機械排水をしていることから、排水ポンプが動かなければ麦の収穫に大きな被害を与えます。杭を打っている排水機が周辺よりも浮き上がり、相対的に樋管が沈下したため、九州農政局土地改良技術

事務所に災害応急用ポンプを借り受ける等、皆様の迅速な対応に感銘を受けました。その後、すぐに業者を手配し、試掘をして漏水がないことが確認でき、試運転をして排水機場が使えるとわかったときはホッとしました。」と語りました。

その次に心配したのは、農道のことです。

「麦の収穫は、6月の第一週から行います。ところが、橋脚が浮き上がり、その他が沈下したため、農道は波打っていました。このため、5月中に収穫用の汎用機が通れるように応急工事を行う必要があったのです。」

このほか、現在県営防災減災事業で改修中のパイプライン（アスベスト管）の被災や農地の沈下等もあることから、行政機関との復旧工事の優先順位の調整などに追われたとのこと。



護岸沈下により管理用道路に生じた亀裂

2. 助けてくれた仲間のみなさん

これまで、農業用施設の被災後の対応の話でしたが、土地改良区事務所の状況については、竹中さんは、こんな風に語られました。「土地改良区事務所も大きな揺れが起こり、キャビネットも何もかもがぐちゃぐちゃになりました。建物も一部が大きく沈下しました。次の朝、私が一番にしたことは、農業水利施設の鍵を取り出すことでした。鍵がなければ、点検もできませんからね。次が、パソコン。パソコンは損傷しましたが、専門業者に持って行ってデータの復旧ができました。その次が通帳でした（笑）」



震災直後の事務所

ぐちゃぐちゃになった事務所を前に茫然としていたとき、水土里ネット熊本（熊本県土連）の米村事務局長から「何か手伝えることはないか？」という電話が入りました。そこで、竹中さんは、「事務所の片付けに2人くらい派遣して頂けると助かります」と答えたのですが、県土連からは6人の職員を派遣して一気に片付けてくれたそうです。

また、熊本県には、土地改良区職員の有志が、連絡協議会という団体を作ってお

り、他の土地改良区職員にもお世話になったそうです。竹中さんは、40歳代ですが、他の土地改良区の20歳代から40歳代の職員で構成される「水土里サークル」という団体もあり、若者らしくSNSでつながっており、わからないことはSNSを通して連絡を取っているそうです。このことについて、「連絡協議会を立ち上げてくれた一の宮土地改良区の甲斐事務局長（当時。現在は同土地改良区理事長）や現会長の天明土地改良区の永井事務局長などの諸先輩方には本当に感謝している。土地改良区の横のつながりがなければ、自分のような一人職員の土地改良区ではどうしようもなかった。」としみじみ語られました。

3. 全国の土地改良区のみなさんへ

地震リスクが低く、東日本大震災の多くの被災者が移住してきた熊本県でしたが、震度7の地震が連続して起こりました。このことから、竹中さんは、「次にどこで自然災害が起こるかもわからない。そう思えば、災害リスクを想定した業務を進める必要がある。今回の地震を通して、施設のマスター・キーを安全なところに預けておく必要があるとか、賦課台帳をはじめとする重要データについては、できる限り電子化し、バックアップしておく必要があるとか、様々な気づきがありました。また、そもそも論としては、土地改良区の合併を進めて体制を強化していくことが重要だと思います。県や市で合併を進めて頂けるなら進んで協力したいと思います。」と振り返りました。

あと、行政のみなさんに一言ということで、「休日も含め、昼夜問わずの対応に本当に感謝するばかりです。」と頭を下げられました。

【九州農政局農村振興部防災課】